862
7

# 和蘭航海略記

国立国会図書館　タイトル『和蘭航海略記』　請求記号 862-7

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『和蘭航海略記』 請求記号 862-7

ガラス使用

862
7

和蘭航海畧記

国立国会図書館　タイトル『和蘭航海略記』　請求記号 862-7

ガラス使用

862-7

阿蘭陀の商船東の方咬留吧日本等の地より渡海するに
初め船出アムステルダムを開帆してアムステルダムを阿蘭陀都城
のあるところより北極の出地五十二度二十三分みて氣候暑き
寒一暑地より河ありアムステルと云是より船を出して針路を西より求め諳厄利亜海の方に来る
此所より船を出して針路を西より求め諳厄利亜海の方に来る
甚海上の視る所西は諳厄利亜思可齊亜喜百利泥亜の三島
あり此三島を總稱してゴロートブリタニヤという又東方
拂郎察國あり此國の渚と諳厄利亜との中間の峡を船
師の詞カナールと云一ツ拂郎察人ここを一シセよという阿蘭陀人
もモウよいえり譯して神よりの義なりこの峡の形衣服の

袖よ似そうになり此名ありその峡の幅六七里より過ぎといえり

和蘭里数以下皆同諳厄利亜ハ西洋中の大島よて北極乃出地五十度ゟ

五十六度よ及ぶ其人猿狎みして智あり水戦を善し諸の技藝

よ長ず此國の内ロンドンとゝ云ハ自鳴鐘の細工天下第一ゟて

他國乃及ぶ所ゟ非ざるなり又拂郎察國ハ歐羅巴洲の中に

在て其地赤道以北四十二度ゟ巳五十一度の間ゟ在り赤道の北四十

北極迄の度ゟ四十二度なり二度の地里ゟ

故ゟ以下北極の度を記ゟず此國の風俗人情親切みして学才あり

人ゟる強勇ふして軍器の事に長ず他國の人ゟ交る

礼譲厚く大都の人乃風あり衣服の制ハ時世よりて変

革ゟ其言語能雑ゟて聴よ堪ゟず能く其君長り

和睦して自己の事業を勤むるゟ速なりとゝ云此海を

過ぐるハ針盤の数東西南北を三十二向よ

分て甚微細なる事ゟ多ゟ山有其大概なり

伊斯巴尓亜海ゟ出川其海上に在る所西ゟ

タールスゟ云ゟ譯ゟも大西洋とゝ云其東

古ゟ此國の形を廣ごろそれ牛皮ゟ譬ゟ其地赤道以北三

十六度ゟ四十三度余の間ゟ在り國の南北ハ海水ゟ是を環り

東西ハ他國ゟ界ゟて山岡の人交易乃事ゟ

諳厄利亜阿蘭陀の諸國ゟ通高ゟて岡を十四道ゟ分てり

氣候熱尓瑪尼亜ゟり温なり土産ゟ諸の菓葡萄酒麻

苧等あり岡中に人民ゟく岡ゟ西北の地ハ曠野多ゟ銅鐵

あり又金銀ありとゝえそも別ゟ亜墨利加洲ゟり金礦

を求もれ少ゟて其國中ゟ金猴山ゟて黄ゟ

国立国会図書館　タイトル『和蘭航海略記』　請求記号 862-7

ガラス使用

この海上航過ル、西ハ大西洋ヲ東ハ波尔杜瓦尔國ヨリ甚地
赤道以北三十七度ヨリ四十二度ノ間ニ在リ此國歐邏巴洲ノ
中ニテ大ナル一ニシテ人皆強勇ニシテ歐邏巴諸
國ニ雄長スル國ヲ五道ニ分チ都城ノ在ル所ヲリスボント云
沿海ノ地ナリ此國ニハ大河五條アリ其内ダーミエスト云河
アリ此國ノ人ハタヨ、ト云此河都城ヲ過テ伊斯巴尔亜海
ニ入ルニヨリ故ニ歐邏巴諸國ノ商船悉ク此都城ニ集リ
テ交易ヲナスニヨリ其人夢ニ才アリテ最モ性力ア交易ヲ善ク
亜細亜、亜弗利加等ノ諸國ニ通商シテ利用ヲ得ルコト
專トセリ土産酒、油、金、銀、錫、鉛、鐵、明礬、其他明珠、
種々アリ又此國中ニコインブラト云所アリリスボンニ次ノ

北ノ方ナル其地ニ湖アリ其水中ニ巨材或ハ鉄錨等ノ物ヲ
入ルニ沈ムコトナクシテ水ニ浮ミ出ルヨリ此海ヲ過
ルニハ必ス針路ヲ正南ニ求ム亜弗利加洲ノ海ニ向ヒ其
間小沿海ノ諸國アリ甚大ナルハ獨尔傑立篤、沙剌、尼及立西亜黒人國ナリ古幾剌太、亜兒臣音、
爲匿亜、工鄂、等ナリ是ヨリ亜弗利加洲ノ内ナリ
亜弗利加洲ノ地方ニテ七十里程西ニカナーリセアイラントヽ
ヘル島アリ總テ八島ノリ此島金銀其他ノ産物甚豊饒
ノ地ナルヲ以テ一名ヲゴロッキ、アイラントモ云フ漢ノ其
義ヲ譯シテ福島ト云フ此八島ノ一ニテ子リフハアト云島
ホビーコトイヘル世界第一ノ高山アリ彼方度数ノ學者

国立国会図書館　タイトル『和蘭航海略記』　請求記号 862-7
ガラス使用

天下の地圖を製り東西の經度を定むるに此山を以て
經度の始めとせり總て亜弗利加洲は赤道の直下なるを
故に氣候極て酷熱なり其中小百里余の曠野或は沙地
多くして河水もなく人民住し難き地とす又あり
諸の猛獣象。獅子。虎。バンデルス。豹の牡なる。蛇。飛龍。猿。犬。
馬の属い多し土人色黒くして野蛮獰猛なり北の方
地中海に近き所に住するものは色白しといえども遠く南
に住するものは色黒くして鄙僿なり又此洲の中ほど
多くは山あり其地満潤以来終に雨ふることなし其國中
に河あり剌的(ラテン)の印語泥禄(ナイル)河阿蘭陀語子イルともよぶ此河
南より北に流れて地中海に入る河水毎年アゴストス月の始
滿ちて次第に長じて田地に灌ぐ土人漲れる多少を視て其實の
豊歉を候い知るとぞ其水平地より高さ十六丈ルホーゴ日本
の尺也是のゆえに元四十日或過ぐれば水減じてもとのごと
くなり又亜弗利加の渚(ギニ)より西に亜弗利加(ギニ)の渚より西に島あり總て十島
ありカポヘルデス或はソウテヌグルウーンポイラントともよぶ波(ポ)爾
杜(ポルトガル)尼(ガル)國に属して阿蘭陀の商船東洋に渡るもの此所を
針路を東南に轉じて乗り数百里を海上に経てカープ
の地に至れば其地を亜弗利加極南の地とす此地にて赤道以南三
十五度に在り土人色黒く極て鄙陋にして人類に似ざる者有て
ホツテントットともよぶ他國の商船此地に泊て風便を候ふ
もの其食餘を此海邊にもとめるふ土人その食を歌て

国立国会図書館　タイトル『和蘭航海略記』 請求記号 862-7
ガラス使用

きたる側より人あり小艇を漕ぎ来たり食をくらふとなり此地海風迅急にして波浪最も大なり商船この所を過ぐるを常とす西洋諸國の船もこの浪を逢へば破壊せらるゝ事なし一此處を過ぎ得ざれば始て岬を登る事あり故に此所を拂郎察人呼てカープデ。ボン子ヂュスペランセと云阿蘭陀人其義を譯して喜望峯と云初めアムステルダムを開帆して大西洋を過ぎ支那より亜弗利加洲の渚を經この地を望む海路凡二千百里順風なれば凡四箇月を經ると云此岬を船を泊めず天氣の陰晴風波の動靜を考て又吉日を撰んで東洋へ漕ぎカープより經三十度を東へ過ぎて其北なる麻打葛矢葛尓と云大島あり此島を波尓杜兎尓の人呼て聖狼冷祖島と云其傍の海中に暗礁甚だ多く甚だ險岨の利なきを以て船を泊めざるなり此島を過ぎて又東北へ轉じ東の求め凡四百五十里を過ぎて又東北へ轉じて暫く其間の海を航しレイニデキエムと云即應帝亜海なり其西北なる亜剌皮亜。伯兒齊亜。應帝亜等の沿海の諸國多く皆物産豊饒の地なりカープを開帆して順風なれば凡三月餘一千五百里を經て咬嗶吧の重鎮と云咬嗶吧は南海の中に在て舊名爪哇と云阿蘭陀人ヤーハヤ呼ぶ即爪哇の轉音なり其地赤道以南六度余にあり東西百五十里南北三十里に過ぎざれども氣候常に熱して穀一歳に再び熟して甚だ肥沃なり北は須馬太剌を距り東北は淳泥に近し

其西南ノ外洋なり阿蘭陀商館の在る所をバタービヤと云ふ舊名ヤカタラとぞ即咬嗶吧なり此地よ椰子樹多し一番小椰子を呼てカラップと云即咬嗶吧の轉音なり此地よカラップセレと云都城の地なり其外都城の所々多し其地物産充溢して諸番人交易の要地なり風俗淫羅よ似り赤髪にして面黒く文身のごの間くあり男ハ薄頭にして女椎髻にして白布をもつて頭を纏ふ土人呼てサプタンガンとよぶ土産よ龍脳胡椒肉荳蔲檳榔樹椰子斑枝莪蒁藤甘藷燕窩等ひり鳥ハ鸚鵡遠哥吻々乳雀火鶏あり獣よ水犀豪猪香貓深鼠猴犬牛鹿あり阿蘭陀人ごの所よ日本(波の字を日本)より凡五月初旬バタービヤ(風波の港なり)開帆し針路を西北よ求め数里

みしてスタフートバンカ(小島の名なり)の側よ至ら其海上の在所東よ淳泥(ボルネオ)西よ須馬太(スマトラ)剌及び滿剌加(マラッカ)の地あり其淳泥ハ亜細亜中の大島みして咬嗶吧の東北よ当ら其地赤道の直下よして氣候極て熱し人ごる面黒く食ら盛よ器皿なし竹をもて貝多葉(バイタ)を綴ぢ器よ充つ土産片脳五色鸚鵡象牙玳瑁(タイマイ)椰子檳榔の属あり又須馬太剌ハ暹羅の南よ在て滿剌加(マラッカ)よりハ半日の海路を隔つ國の形長く大なり此地よ赤道の直下なるよ氣候極て熱して産物甚多し米粟殊よ充溢して其外金銀并ふべルケストフ(山の産物辰砂等の属)薬種絲木棉の属あり西洋の商舶常ふ来りて交易をなす云其人武力強健みして常ふ敵國よ相攻む阿蘭陀暦数一千六百

国立国会図書館　タイトル『和蘭航海略記』　請求記号 862-7
ガラス使用

十六年より當てく戰士六萬人軍船二百艘脚艇五十艘を備へて
波尔杜兎尔國小渡て戰をなせしとぞ云又滿剌加の地を
須馬太剌の北より在り舊羅邏羅より曆數一千六百四十年
の後阿蘭陀より屬て其地を領しイスと改め名く史より以來
土人の詞よりシレイスと卯度詞乃二州あり即ち長崎より東北
阿蘭陀人役使する所の崑崙勃泥
西國米丁香胡椒等の五穀出
て針路を東北の間小求めて童
沿海の地あり栗埔塞占城交趾瓊州廣東東京福建
浙江等の地なり其東より諸島多一大なる島のルパラコウ
ミンダノ呂宋等あり此あたりの諸島の總名ヒルペインセヒイ

ラントと云其中呂宋を番語リユーニヤと云又マニイラをいふ
所あり皆伊斯巴泥亞小屬そり後小ミンダナヲ併せしより
マニーラ而已今伊斯巴泥亞小屬そと云其國南北百里余東西
六十里より過ぎ土産種くあり蘇木殊より多しとぞ又呂宋の
西交趾の海邊より近し泥布よりプラメと云ふ
あり華人より往て萬里長汕と云ことを過て東北の方數
百里ふして一大島ありホルモーザと云華人唯て臺灣と云又東
寧ともいふ其地西ハ福建より近しその東ハ大琉球なり是よりさ
阿蘭陀人より攻領して其臺城の在る所をゼーランデヤといふ
曆數一千六百六十一年 日本寛文元年清康熙元年當て其地を支那の海賊
逐ふとぞ 漫ル鄭成功の 其後阿蘭陀より君長を遣くるなり

其地南北凡六十里東西二十四五里なり氣候日本よ北よりも
溫なり俗こと頑愚みして好て人を殺して其髮を截ち是を
洗剔して銅錫の箔を粘く男女ともに跣足みして身を短衫を
着幅布を以て其下を蔽ふ婦人は青布を用ひて脛を裹み
多く草花を帶ふ男子凡十五歳なれば
其腰小くして故く射猟く飛逐ること奔馬の如し速なり
生鵠を以く歯を深免人各く耳を穿て孔あり身を刺て
文をなすことめりて和蘭字なり物産鳥よ鵝鷺鴛鴦。
雁の属あり獣よ豹。鹿。麝の属あり樹よ荔枝。椰子。栟櫚
等ありとよ初冬咬噌吧を開帆して海上凡三百七十里余を
過ぐ臺灣よ至るそよを又三百三十里余みして日本六月
下旬よ長崎の港よ至る臺灣以往の海よ大琉球。雞籠
島等を経て針路を西北の間よ求め五島洋よ至て又東へ
轉ずること凡其間所々の海上よ於てヨクタント。ガラートポーゴ等
をみて日輪の為夜を側よ黄道の距離を参考して北極出
地の高低を知り吾船の所在赤道の南北何度なるや
辨ずる所の針路のり進む時を退く時を甚だ
進む是船師の第一よ學ぶべきこと
ゆえに記す云

862
7

6600

国立国会図書館　タイトル『和蘭航海略記』 請求記号 862-7

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『和蘭航海略記』 請求記号 862-7

ガラス使用

862
7

国立国会図書館　タイトル『和蘭航海略記』 請求記号 862-7

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『和蘭航海略記』請求記号 862-7